

みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.53

信毎こどもスクール

今からおよそ2億3000万年前に地上に姿を現した恐竜は、さまざまな形に進化して繁栄しました。でも、ほとんどが絶滅し、今では恐竜たちがどんな姿でどんな暮らしをしていたか、分からないことも少なくありません。そ

うした恐竜たちのなぞに迫る第11回信毎こどもスクールが13日、飯田市でありました。国立科学博物館の恐竜博士、真鍋真さんから話を聞いたり、さまざまな体験をして学んだことを、こども記者が伝えます。

わくわく！恐竜の世界



ティラノサウルスのうで

榎原日向記者 木曾町2年

まなべ先生から恐竜のことをいろいろ教えてもらいました。恐竜は、は虫るいのように4本足ではなく、2本足で立つようになって、ティラノサウルスのように体が大きくても、はやく走ることができるようになりました。

先生によると、ティラノサウルスの体は10歳以上もあるのに、うでは人間の大人と同じくらいの大きさしかなかったそうです。そのため、手でえ物をもって口にはこぶことはできず、ほとんどやぐにたたなかつたみたいです。

でも、しゃがんで立ち上がる時は手を前についで、よっこらしよという感じで立ち上がっていたそうです。おばあちゃんといっしょで、ちょっとかわいいなと思いました。

講師の
真鍋真さん



やさしかったオビラプトル

茅野匠海記者 松川村2年

ほくは、オビラプトルという恐竜は、ほかの恐竜のタマゴを食べただけだと思っていました。名前の「オビ」がタマゴで、「ラプトル」がどろぼうというみだからです。

でも、今回のこどもスクールで、まなべ先生の話聞いて、オビラプトルが、ほかの恐竜のタマゴを食べただけじゃなくて、自分の巣のタマゴをちゃんとまもっていたらしいことをはじめて知りました。そして、オスも、タマゴをあたためていたかもしれないと、先生に教えてもらいました。

ほくは、オビラプトルが大好きです。大好きなオビラプトルが、やさしいおかあさんとおとうさんでよかつたなあ、と思いました。



思ひ思ひに色をぬったステゴサウルスの絵をパソコンに取りこみ、画面上で手のひらにのつたよ



化石のレプリカ作りでは、アンモナイトとスピノサウルスの歯を作ったよ

スピノサウルスのペーパークラフト作りでは真鍋さんも作り方を教えてくれました

こんなふうにできあがります



楽しかった三つの体けん

熊谷美織記者 飯田市3年

わたしが今回体けんしたのは、①化石のレプリカ作りと②3Dめりえと③ペーパークラフトです。

①では、スピノサウルスの歯を作りました。長さはだいたい8センチくらいです。ギザギザがあつて、かまれたらいたそうだと思います。

そして③では、スピノサウルスのペーパークラフトをくみだてました。作つてみて、本当にせ中の「トサカ」のところがトゲトゲで、かっこいいと思いました。



レプリカ作り、ていねいに

高橋優希記者 松本市1年

化石のレプリカづくりをたいけんしました。まず水の中に石こうをこぼさないようにさらさらとながしいれてから、スプーンでヨーグルトのようにドロドロになるまでまぜました。つぎに、それをアンモナイトやスピノサウルスのかたに入れて、15分くらいまつとかたくなります。そしてゆっくりとかたからはずします。かけたりしないように、ていねいにやるのがむずかしかつたです。

できあがつたらカビがはえないように、よくかわかすとかたくしっかりしたレプリカになるそうです。ほくじゅうやアクリルえのぐで、いろをつけてみたいとおもいました。



500~1000種類も

菊原心粋記者 飯田市3年

わたしが一番おどろいたことは、恐竜のしゅるいがわかつているだけでも500から1000もあるということです。そんなにたくさんいたのに、なんでほろんじやつたのか、ざんねんに思いました。

大むかしのことで、恐竜の体の色とかわかつたことがたくさんあるけれど、真鍋先生の話聞いて、なんだか本物の恐竜にあえそうな気がしてきました。

わたしはやっぱり、わたしのじもとのいい田市びじゅつはくぶつ館にかざられているスピノサウルスが一番すきです。ほんとに大きくて長い顔をしていて大きな口でこわいけど、本物が見てみたいなあと思います。

